

「ツイミীগ」を早期最大化

「トルリシテイ」契約終了で

住友ファーマ・田口常務

住友ファーマ常務執行役員の田口卓也 営業本部長は9日、本紙の取材に、2023年度以降の糖尿病領域の国内展開について、昨年9月発売の新規作用の2型糖尿病治療薬「ツイミীগ」の早期最大化が当面の目標になる、との方針を明らかにした。12月に販売契約が終了するGLP-1受容体作動薬「トルリシテイ」皮下注の「なくなる約3000億円をどれくらいカバーできるか」を話し合

同社は23年度から新中期「シテイ皮下注」の販路が契約計画が始まり、5年計「約200億」により12月で終了する計画が想定されている。国内展開の観点から、重点は糖尿病領域の展開が注目されている。「ツイミীগ」の売上のカバーを図

同型売上は3000億円を方針を示した。余りと、国内医薬品事業売上の約2割が失われる計算となる。田口氏は、DPP4阻害薬「エクア錠」、DPP4阻害薬・ヒゲアナリド系薬配剤「エクスネット配合錠」(合計21年度売上375億円)、ヒゲアナリド系経口血糖降下薬「メトグルコ錠」(同81億円)の計400億円(同18億円)の規模を維持しつつ、「(同21億)と「ツイミীগ」(同69億)を次期中計の国内成長ドライバーに位置づける。田口氏は「同

新しい患者、その患者さんの特性に合わせて、ピデオ等しかりと疾患や治療の内容を説明することが重要であればeコンセンが重要だ。私たちが必要だろう。私たちは、被験者リクルートメント、eコンセン、eCOA、遠隔診療、訪問看護、治療薬の配送、ウェアラブルデバイスなど必要ツールやサービスを網羅的に提供している。コンサルティングを通じて、患者さんの特性に合わせた最適なソリューションを提供し、クライア

割で昨年度の統合失調症方野の売上を倍以上にすることを期待している」と述べた。営業体制はリアルとデジタルを組み合わせたハイブリッド展開は「順調」と説明。医療従事者一次に含ませ、多様なチャンネルによるタイムリーな情報提供とコンテンツ制作に取り組み、引き続き医療従事者の

満足を高めたい考え。同社全体では、北米で約2000億円の売上規模の「ツイミীগ」が来年2月に特許満了を迎える中で次期中計のスタートとなる。その「ツイミীগ」の克服を同社は、新薬の成長とTDS細胞由来の細胞治療薬、デジタル治療機器などの投入によりカバーし、成長を図る。

具体的には進行性前立腺癌治療薬「オルコピクス」、子宮筋腫・子宮内腺症治療薬「マイフェンブリー」、過活動膀胱治療薬「ジェムテサ」の3製品の成長を図る。加えて、24年度に米国、26年度に日本での上市を目指す開発中の新規統合失調症治療薬「ロタロン」、24年度以降の日本上市予定の細胞治療薬を投入する。

エイツーヘルスケア・神谷社長

患者中心のサービス展開 特性に合わせたDCT支援



エイツーヘルスケアの社長に4月に就任した神谷氏は、DCT(分散型臨床試験)をはじめとするサービスに患者中心の考えを取り入れて提供していくと強調する。神谷氏は「私たちは患者さんに直接接する立場で、臨床試験支援を運用側の視点ではなくPatient Country(患者中心)の視点で行くことを共通認識を取り組んでいる。コロナ禍を経て必要性が高まったDCTの支援も、患者さんの特性に合わせて最適なツールを組み合わせ、サービスを全提供していくと患者中心のサービスを展開を力強く宣言する。

その軸が「患者中心」の考えに基づいたサービスだ。具体的な展開をDCT支援を例に「DCTだからと、必ずしも全てをパートナーで行う必要性はない。疾患ごとの患者さんの特性に合わせて、ピデオ等しかりと疾患や治療の内容を説明することが重要であればeコンセンが重要だ。私たちが必要だろう。私たちは、被験者リクルートメント、eコンセン、eCOA、遠隔診療、訪問看護、治療薬の配送、ウェアラブルデバイスなど必要ツールやサービスを網羅的に提供している。コンサルティングを通じて、患者さんの特性に合わせた最適なソリューションを提供し、クライア

フィットも合わせて、サービスを提供していく」と説明する。導入する医療機関の支援は、同じ伊藤忠グループのヘルシステム24のサービス体制を生かす。国内最大級のコンタクトセンターを擁する同社と協業し、導入施設の医療従事者、治療に参加する患者のヘルプデスクを開設。日常的な問い合わせに加え、デジタルデバイスの使い方、治療薬のロジスティクス、被験者の登録・割付支援も実施可能だ。

一方、今年本格化させたサービスは、リアルワールドデータ(RWD)のAI分析がある。桁違いに膨大なデータ取得できるRWDの分析を人手で行っていた時は、問もコストもかかる上、分析結果も限られたものになる。そしてAIが生み出す最適なアルゴリズムに基づきRWDを分析し、人の分析では気づき得ない知見の獲得につながる。例えば、新たな開発薬の発見、より早期の安全性シグナルの検出などだ。

これを可能にするのは4月から協業を始めた米国のDataRobotが保有する自動的アルゴリズム生成するAIプラットフォーム。小売業などの他産業で使われている技術だが、RWDの重要性が高まっている製薬産業を含めたヘルスケアビジネスのニーズに適応し判断し、国内CRDとして初めて同システムを用いたサービスを開始したと話す。

同社は、8月以降、限定出荷が始まったアセトアミノフェン製剤の代替品としてロキソプロフェンなどにも処方変動が起こることが想定されるとしてい

が、アセトアミノフェンは400万人超、前月から1.6倍増だった。同社は、8月以降、限定出荷が始まったアセトアミノフェン製剤の代替品としてロキソプロフェンなどにも処方変動が起こることが想定されるとしてい

が、アセトアミノフェンは400万人超、前月から1.6倍増だった。同社は、8月以降、限定出荷が始まったアセトアミノフェン製剤の代替品としてロキソプロフェンなどにも処方変動が起こることが想定されるとしてい

が、アセトアミノフェンは400万人超、前月から1.6倍増だった。同社は、8月以降、限定出荷が始まったアセトアミノフェン製剤の代替品としてロキソプロフェンなどにも処方変動が起こることが想定されるとしてい

が、アセトアミノフェンは400万人超、前月から1.6倍増だった。同社は、8月以降、限定出荷が始まったアセトアミノフェン製剤の代替品としてロキソプロフェンなどにも処方変動が起こることが想定されるとしてい

が、アセトアミノフェンは400万人超、前月から1.6倍増だった。同社は、8月以降、限定出荷が始まったアセトアミノフェン製剤の代替品としてロキソプロフェンなどにも処方変動が起こることが想定されるとしてい

が、アセトアミノフェンは400万人超、前月から1.6倍増だった。同社は、8月以降、限定出荷が始まったアセトアミノフェン製剤の代替品としてロキソプロフェンなどにも処方変動が起こることが想定されるとしてい



ひと知れず、ひとのため。

私たちがその薬、その医療機器に関わったことを患者さまは知らない。それでも、多くの命に希望をもたらすこの仕事に誇りを持っている。

A2 Healthcare × 人財

The Life First Company

エイツーヘルスケア株式会社
〒112-0002 東京都文京区小石川1-4-1 住友不動産後楽園ビル



私たちは伊藤忠グループの一員です。

